

岡山大学広報

いちよう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE



OKAYAMA
UNIVERSITY



ファールを超えて

世紀の発見を生む「昆虫博士」



Vol. 107

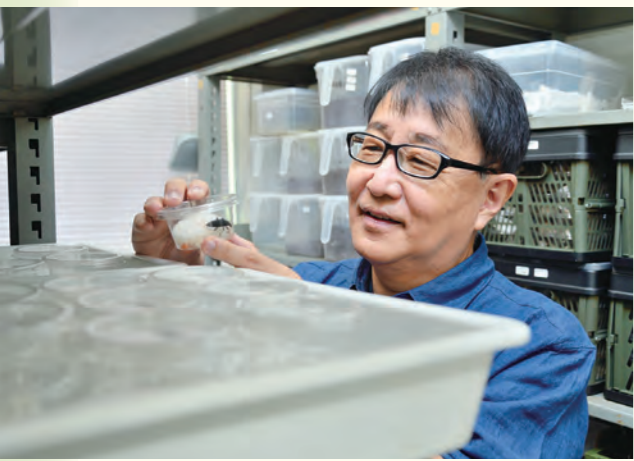
2024

CONTENTS

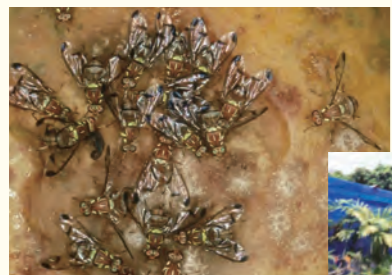
祝!! 出雲駅伝&全日本大学駅伝出場決定! 陸上競技部の躍進
好き!で輝く 岡山大学の学生たち

令和5年度「学生スポーツ賞」&「学生文化奨励賞」受賞者紹介
岡山大学のD&Iの取り組み

OU NAVI



ど。入学直後に入部した生物クラブは半年で辞め、「朝はサーフィン、夜はフォークソングを歌う楽しい学生生活でした(笑)」と、マルチな一面も。しかし卒業が危ぶまれ、3年生からは単位取得に奔走。その頃から昆虫熱が再燃し、今でも毎年の楽しみという日本動物行動学会に初めて参加した。4年生になってからは、先輩から受け継ぐかたしで、ウリの害虫であるヘリカメムシのオスの求愛行動をテーマとして卒論研究に没頭。とにかく餌代が大変で、そのうえ、1日300個ほどの餌を替えるだけで日が暮れる。「研究どころではない」と思い、なんとかサボろうと、バケツにヘリカメムシと餌をまとめて入れて放置したんです。するとある時、バケツからバシバシと音がして、のぞいてみると、ヘリカメムシのオス同士が後ろ足で蹴り合いのけんかをしているのを見つけてしまった。これは面白いと急ぎよテーマを変更したんです。昆虫のオス同士のけん



▲ウリミバエ



▶沖縄県中部農業改良普及所時代

んかは当時めずらしい発見として話題になり、今でも宮竹教授の中心的研究のひとつになっている。

研究者として害虫根絶に尽力

卒業後、1987年に沖縄県中部農業改良普及所に就職した宮竹教授は、品種改良した農作物を農家に広めたり、展示圃に防鳥ネットを設置して試験研究をしたりする仕事に従事。特に、サツマイモから害虫を防除するため苗に虫除けを兼ねた土壌表面被覆シート(マルチ)をかける試験研究は、宮竹教授にとって初めての公的な事業であったため、嬉しかったと語る。これ以降、沖縄県のサツマイモにはすべてマルチがかけられるようになったことから、宮竹教授の貢献度の高さがうかがえる。その後、就職3年目の1990年には沖縄県農業試験場のミバエ研究室に異動。ちょうど



▲ロンドン大学の教授(左)とポストク(右)と

▼ゼミ生との昆虫観察



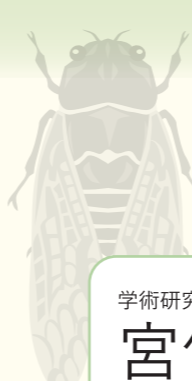
県が農水省とともに進めるウリミバエ根絶プロジェクト(1975-1993年)に参加した。その根絶と研究が宮竹教授の任務となった。「害虫との最終戦に参加したときには、身が引き締まる思いでした。先輩たちの長年の努力があったこそその根絶です」と、感慨深げに語る。プロジェクトへの参画の傍ら、日々の害虫に関する論文執筆などの功績が認められ、1996年には生物学で博士号を取得。翌年、沖縄県人材育成財団の支援でロンドン大学に1年間留学し、チチュウカイミバエの研究にも取り組むなど、海外でも功績を挙げた。2000年に本学農学部に着任してからは、昆虫の行動生態学や進化生物学などの研究を中心に、生理学や医学など他分野の研究者との共同研究も展開し、暮らしに役立つ応用的な研究の可能性も広げている。



学術研究院環境生命自然科学学域 教授

宮竹 貴久 MIYATAKE Takahisa

■専門分野/環境・農学・昆虫科学
昭和37年生まれ。大阪府出身。琉球大学農学部卒。九州大学博士学位取得。沖縄県中部農業改良普及所職員、沖縄県農業試験場研究員、ロンドン大学客員研究員、沖縄県ミバエ対策事業所主任研究員を経て2000年に本学に着任。2023年より現職。著書に「特殊害虫から日本を救え」「死んだふり」で生きのびる 生き物たちの奇妙な戦略」など。



ファールを超えて

世紀の発見を生む「昆虫博士」



▲アリモドキゾウムシ



▶死んだふりをするコクヌストモドキ(左)

昆虫研究者になるまで

外来種の駆除に役立つ昆虫の生態研究をはじめ、自身の卒業論文に端を発した「オス同士の闘争」の研究や、捕食者から逃れるための「死んだふり」行動の研究など、世界に先駆けた発見を次々と成し遂げている学術研究院環境生命自然科学学域の宮竹貴久教授。

最初に昆虫に興味を持ったのは、大阪府茨木市で暮らしていた3、4歳の頃。近所で見つけたダンゴムシやカナブンに魅せられ、小学生の時には、タマムシの美しさに「ノックアウトされた」と、衝撃的だった昆虫たちとの出会いを振り返る。以後も昆虫への溺愛ぶりは変わらず、高校生の時にはカゲロウやトビゲラなどの水生昆虫に夢中になり、当時京都大学でポストクだった谷田一三先生(元・大阪市立自然史博物館長)のもとで、生態や分類を教わったという。その頃から、当時未知の水生昆虫の多かった沖縄で調査をしたいという思いを膨らませており、琉球大学に進学した。「得意科目の生物だけで2次試験を受験できたから」と冗談めかして話すが、谷田先生から昆虫研究の第一人者である故・東清二先生がいることを耳にしたのも、大きな後押しであったろう。

昆虫ひと筋かと思いきや、高校3年生からバンド活動に夢中になり、琉球大学農学部に入学後はミュージシャンへの登竜門だったヤマハの「ポピュラーソングコンテスト」に何度も出場するほ

学生や昆虫研究者を目指す人たちへのメッセージ



◀ライブハウスでの演奏

1st/
project

デビュー戦!

外来種ウリミバエの根絶プロジェクト



宮竹教授の害虫戦記

徹底的な「現場主義」と「試行錯誤」

プロジェクト概要

国外から侵入・定着して作物に甚大な被害をもたらす虫を「特殊害虫(特殊病害虫)」と呼ぶ。その特殊害虫の中でもウリミバエは、1919年に石垣島で確認されて以降、東南アジアから沖縄諸島、奄美諸島、先島諸島などに侵入し、マンゴーやウリなどの農作物に重大な被害をもたらしてきた。そこで沖縄県は1972年の本土復帰に併せて、農水省とともにこのウリミバエの根絶プロジェクトを計画したのである。採用されたのは、不妊虫



▲ウリミバエを両脇のボックス(それぞれ200万匹ずつ入れた)に積んだヘリコプター

放飼法と呼ばれる方法。根絶すべき害虫のオスを人工的に増殖し、放射線をあてて不妊にし、ヘリコプターで野外にばら撒くことで、不妊オスと交尾したメスは子どもを残せず、何世代もこれを繰り返すうち、遂には根絶に至る。ただしウリミバエの根絶プロジェクトに際しては、不妊オスと一緒に不妊メスも放し、野生オスが野生メスと出会う機会も減らした。とりわけ、1980年から4年をかけて総工費25億円で那覇市に建設されたウリミバエを増殖するための工場は、国内外でも最大規模の昆虫増殖工場だ。多い時では、毎週1億匹の不妊ウリミバエが生産されたのである。

託されたプロジェクトの総仕上げ。最終局面における宮竹教授の尽力

この世紀のプロジェクトに宮竹教授がコミットしたのは、1990年4月。ミバエ研究室に赴任し、沖縄諸島からのウリミバエの駆除を確認する調査に参加したのち、最後の根絶目標である八重山諸島で、プロジェクトの進捗を調査した。一方、プロジェクトの推進と同時に、ウリミバエの研究を行うことも宮竹教授の任務であった。宮竹教授は、ウリミバエの人工的な増殖に役立つ技術の確立のため、ウリミバエの発育速度と交尾時刻には相関関係があり、早く発育したウリミバエは一日一回の交尾時刻も早まることを発



ウリミバエの調査で離島を回る



野生オスと不妊オスを誘引できるようにフェロモンを設置したトラップ

見。その成果を10数本もの論文にまとめるなど、不妊虫放飼法の効率化にも貢献した。そのような宮竹教授の尽力もあり、1993年には20年以上の歳月と204億円を費用をかけて戦ってきたウリミバエを日本領土(尖閣諸島を除く)から根絶することに成功したのである。このような血のじむ努力の一方で、近年、一度根絶した地域に再び侵略的外来種が見つかるケースが相次いでいる。宮竹教授は、「害虫の根絶事業には行政からの予算がつきにくく、公務員や研究者が減る現状に課題がある」と危機感を持つ。そこで広く啓蒙の意味も込めて、今年5月には、「特殊害虫から日本を救え」を刊行。侵略的外来種の根絶に尽力する人びとのおかげで、日本の農業が守られていることを伝えている。

2nd/
project

新天地・岡山から世界初の発見へ!

昆虫の死んだふりは役に立つ

昆虫は天敵に襲われるとき、さまざまな捕食回避行動をする。これを擬死(死んだふり)といい、多くの昆虫は外からの刺激に反応して一時的に不動のポーズをとって敵に対峙することがわかっている。

1993年にウリミバエの根絶プロジェクトを終え、次に南西諸島から根絶を目指すこととなったのは、サツマイモを加害する侵略的外来種のアリモドキゾウムシ。現在も継続中のこの未完のプロジェクトに当初から関わるようになった宮竹教授は、アリモドキゾウムシの

観察をする中で、あることに気がつく。アリモドキゾウムシを突いて刺激すると、背中をそり返し、後ろ脚をピンッと伸ばしたポーズで死んだふりをするのである。この発見は宮竹教授の探究心を大いにくすぐった。さらに宮竹教授を驚かせたのは、死んだふりと昆虫の生存の相関性に関する研究が、当時世界でほとんどなかったことである。「世界の誰もやっていないなら、自分がやろう」と決め、宮竹教授のライフワークともいえる昆虫の死んだふり研究がこうして幕を開けた。

2000年4月に10年間勤めたミバエ研究室を後輩に託し、本学に着任したのは、実験対象をアズキゾウムシとコクヌストモドキに変更。特にコクヌストモドキは小麦粉だけでなく飼えることもあり、昆虫をうまく飼えない学生でも飼えるから(笑)と、初めて大学に着任して卒業指導をする身となった頃を懐かしむ。また、コ



岡山県倉敷市内でコクヌストモドキを採集の様子

クヌストモドキはその名の通り穀物を食べる「穀盗人」な昆虫で、全国どこにもあるコイン精米機で採取できることもあり実験対象にしやすいかった。そうして学生とともにコクヌストモドキを何世代も育種し、昆虫の死んだふりは遺伝することを確認。さらに天敵であるクモを使って、死んだふりが捕食回避として役に立つことを世界で初めて明らかにしたのである。

また、宮竹教授は現在、この昆虫の死んだふりとパーキンソン症候群との関連性を研究。「昆虫の行動を観察している」と、不思議なことがたくさん埋もれています。突き詰めて研究してみると、いつかは人の暮らしの役に立つこともありそうです。そのためには面白くて調べること。それが人の生活を豊かにしてくれると思うのです」と話す。

3rd/
project

百戦錬磨!

まだまだ続く害虫駆除への挑戦

ミバエ研究室を離れた後も、宮竹教授の害虫駆除への挑戦は終わらない。宮竹教授が印象に残っていると話すのは、農水省の重大成果としても紹介され、特許も取得した「飛ばないナミテントウ」の育種である。これは、宮竹教授が本学に着任した頃に参画し、現在国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構に所属する世古智一さんがプロジェクトリーダーとして推進したもので、農作物において防除が難しい害虫であるアブラムシに対して、天敵のナミテントウを有効活用しようと、遺伝的にひしよ能力を欠くナミテントウを飼い繋いで、すでに商品化もされている。

もうひとつ印象に残るのは、害虫トラップの開発。これは当時、農水省の知り合いに誘われたことで始めた農水省委託プロジェクト研究で、宮竹教授の研究室が、ベンチャー企業株式会社(岐阜市)、富士フレイバー株式会社(東京都羽村市)らと



飛ばないナミテントウ

▲新型の害虫誘殺トラップ



ハエトリグモの前で死んだふりをするコクヌストモドキ

創部75年史上初の快挙!

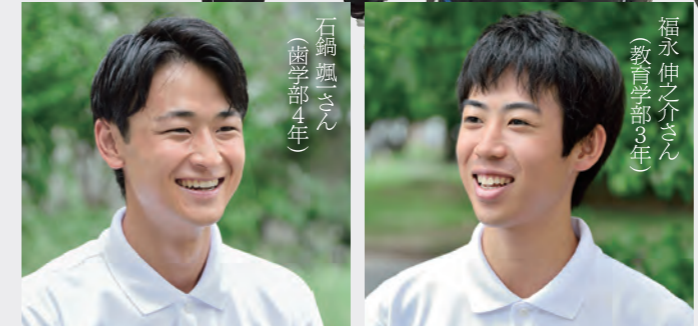
祝!!

出雲駅伝&全日本大学駅伝出場決定!

陸上競技部の躍進



福永伸之介 駅伝主将
石鍋颯一 さん
インタビュー



「出雲全日本大学選抜駅伝競走」と、「全日本大学駅伝対校選手権大会」ダブルでの出場決定、おめでとうございます。福永▼ありがとうございます。昨年11月26日に山口市で開催された第67回中国四国学生駅伝競走大会で準優勝を勝ち取り、2024年10月に行われる第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走への切符を手に入れました。そして先日、9月13日に広島市で行われた中国四国地区選考会で、「秩父官賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会」への出場もつかみ取る事ができました。

「素晴らしい快挙ですね! 今回の出場権獲得への躍進には、トレーニング方法の改良が関わっていると聞きしました。青山学院大学院陸上部から編入学により入部した石鍋颯一さんが、いわゆる「青トレ」を取り入れたのですが、

石鍋▼コロナ禍で2年間活動ができていなかった陸上競技部に、2022年になって、福永や僕、主力の赤澤が入部してチーム力が上がったこと。みんな

「出雲全日本大学選抜駅伝競走」と、「全日本大学駅伝対校選手権大会」ダブルでの出場決定、おめでとうございます。福永▼ありがとうございます。昨年11月26日に山口市で開催された第67回中国四国学生駅伝競走大会で準優勝を勝ち取り、2024年10月に行われる第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走への切符を手に入れました。そして先日、9月13日に広島市で行われた中国四国地区選考会で、「秩父官賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会」への出場もつかみ取る事ができました。

「素晴らしい快挙ですね! 今回の出場権獲得への躍進には、トレーニング方法の改良が関わっていると聞きしました。青山学院大学院陸上部から編入学により入部した石鍋颯一さんが、いわゆる「青トレ」を取り入れたのですが、

石鍋▼コロナ禍で2年間活動ができていなかった陸上競技部に、2022年になって、福永や僕、主力の赤澤が入部してチーム力が上がったこと。みんな

「具体的にはどんなトレーニングを?」
 石鍋▼まず、練習の意図を伝えて取り組んでいます。ただ与えられたメニューをこなすのではなく、「この筋肉を鍛えよう」とか、「今日は長距離の大会だから距離をしっかり踏んでいこう」とか、目的を意識しながら取り組んでいます。これまでは感覚的に行っていたトレーニングを科学的に分析してデータ化することで、目標設定もやすくなりました。生理学的、生化学的なデータを分析したり、情報を交換して「ディスプレイしながら陸上している」感じですか。

福永▼それと月1回ミーティングを行う方向性を確認し、1カ月ごとに修正もしていました。活動日以外の3日間をどう過ごすかも大切なので、朝練や個人練習も目的を持って各自行い、週4回の集合練習をいかに効果的にするかを大切にしています。

「トレーニングの改善やミーティングによって、どんな変化が起きましたか?」
 石鍋▼誰かだけが伸びるのではなく、全体的に底上げできているというかな。劇的に、ではないですが、部員全員の個人タイムがじわじわ上がっていきまし

「練習時間の少ない本学で、皆さん勉強やアルバイト、練習を両立させるのは大変かと思えます。大会出場の資金を工面するためにクラウドファンディングを活用されたのですか。」
 福永▼やはり大会に出場するとなると、合宿や夏場のトレーニングがカギになってきます。当部のPRにもなればと考えてのことです。鹿児島大学さんが昨年度、全

クラウドファンディングを活用し、「青トレ」×岡大流で効率的に鍛える



日本大学駅伝出場を決めたときにクラウドファンディングを実施されたんですが、それをモデルにして出雲駅伝が決まったあとの1月に計画をスタートしました。募集期間は4月19日〜6月17日の60日間。学生だけで行いました。最初の目標を3日間でクリアし、最終的には252人の方からのご支援をいただき、約371万円を調達できました。

石鍋▼駅伝大会に全国出場するために必要な、長野県菅平高原での高地トレーニングや合宿に役立てることができました。酸素が薄い標高1400mの高地で走り込めたのは自信になっています。また、今回の出雲駅伝、全日本大学駅伝の応援に来る部員の旅費、ドリンクなどの費用を捻出できそうです。

「全国の皆さんの支援が大きくなりましたね。10月14日の出雲駅伝本番まで1カ月、11月3日の全日本大学駅伝まで1カ月半ですが、いかがでしょう。」
 石鍋▼全日本大学駅伝は、去年も行



▲9月に行った熊本県水上村での合宿の様子

※本記事は9月15日のインタビューをもとに作成しました。

【出雲駅伝】
 総合17位 2時間21分1秒 **出場結果**

【全日本大学駅伝】
 総合23位 5時間40分11秒

陸上競技部の皆さん! お疲れさまでした!!



決起集会を開催!

9月15日に岡山大学共育共創コモンズ(OUX)で、「第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走 学内決起集会」が行われ、現役の陸上競技部員に加え、クラウドファンディングでの支援者やOB・OG、応援団総部応援団、応援団総部吹奏楽団などが参加。主将あいさつや選手紹介、新ユニフォームの発表、また支援者からの激励など、会場一体となり陸上競技部にエールを送りました。

ウエイトトレーニング部

で輝く[◆]

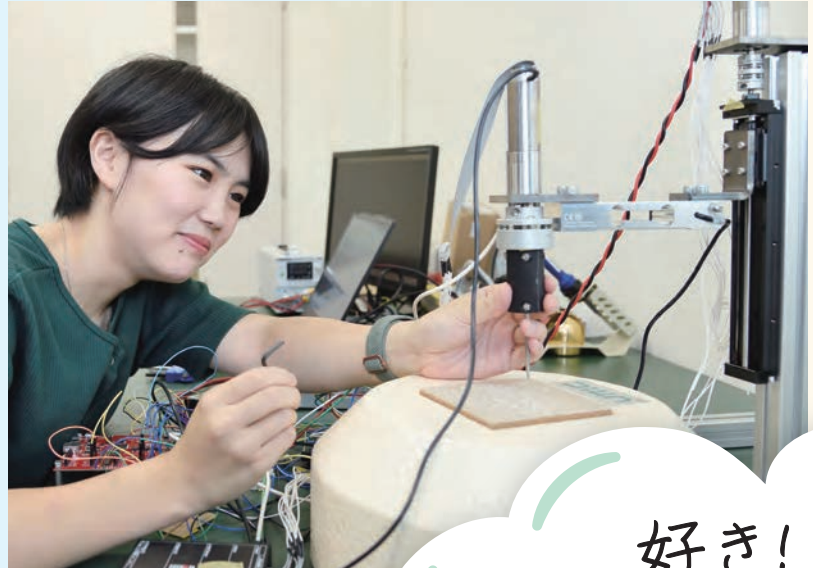
未知のウエイトに挑み、
アジアチャンピオンの座を獲得！

人間が本来持つ、力強さやたくましさを競うパワーリフティング競技。本学ウエイトトレーニング部主将の壺内怜帆さんは、5月に香港のクイーンエリザベスタジアムで行われた「2024年アジア大学クラシック・エクイップパワーリフティング選手権大会」に日本代表選手として出場。見事、アジアチャンピオンに輝いた。パワーリフティングは、バーベルを持ち上げるスクワット、ベンチプレス、デッドリフトの3種目を行い、合計挙上重量を競うスポーツ。わずか数秒の間にMAXまでパワーをみなぎらせて勝負するこの競技で3種目とも1位に輝いた。「何よりも、ともに出場した部員4人全員がメダルを獲得できたのがうれしい。大会後は香港で盛り上がりました」と喜ぶ。

本学に入学するまでパワーリフティングの経験はなかった。中学時代はアーチェリー部、高校時代はラグビー部だったが、大学の部活動への入部は考えていなかった。入学後、たまたま食堂で同部のチラシをみかけ、「筋力には自信がある。向いているかもしれない」と直感して入部。基礎的な筋力やフォームを身に付けていった。当時から体重は115キロと恵まれた体格で、めきめきと



得意のスクワットで日本記録の325キロを目指し練習する壺内さん



コントローラーで医療用針穿刺ロボット(Zerobot®)を操作する中田さん



医療用ロボット研究

で輝く[◆]

がんの検査や治療を行うため、2012年から本学の研究チームが開発したのは、患部に針を刺す医療用針穿刺ロボット(Zerobot®)。中田こころさんは、このロボットをさらに発展させ、骨のがんの検査や治療のための骨穿刺ロボットの研究グループに所属し、開発を進めている。医師がCT装置の近くでCT撮影しながら患部に針を刺す従来の方法は、CT撮影の放射線によりその医師が被曝してしまう欠点があったが、遠隔操作できるZerobot®はその欠点を解決。2018年に初の臨床試験に成功すると、2020年に治験を開始。腎臓や肺、副腎、筋肉など軟部組織に関する治験を終了したことで、次のステップとして骨穿刺ロボットの開発が始まった。中田さんは、「人が骨穿刺を行うと力加減や削り方が難しく、患者さんへのリスクも大きくなります。それをロボットが行うことで、医師と患者さん双方の負担を小さくして、検査や治療ができるメリットがあります」と説明する。

工学部を目指したのは「ものづくりが好きだったから」と答えは明快。小学生の頃から、建築関係の仕事をしている父とよく工作やDIYを楽しんでいた。夏休みの自由研究

好き! で輝く[◆] 岡山大学の学生たち



壺内 怜帆
経済学部 4年

上達。体格に合ったフォームを見つけ、反復運動によって筋力をつける地道なトレーニングを積み、1年の秋の「学生選手権大会(インカレ)」で3位に。その後、スクワットのフォームを調整したところ記録がぐんと伸び「これなら学生記録を更新できるかも」と、週2回の合同練習に加え、週1回の自主練習を4、5回に増やした。ところが2年の10月に右足の親指を骨折。コロナ禍も相まってインカレへの出場がかなわず、悔しさをかみしめた。

転機は2年の後半。大会に出場しても記録が伸び悩んだり、優勝できなかったりと悶々としていた頃、OGの伊賀椰子に練習を見てもらうことになった。「体格にも素質にも恵まれているのに、もったいないな」と感じた伊賀椰子は、重量や強度を上げつつ柔軟性や可動性を高める独自のトレーニングを導入。また、壺内さんの感覚と、動画での分析をすり合わせて最良のフォームを見出した。これらのコーチとの二人三脚でのトレーニングが功を奏し、3年の3月に開催

された「ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会」ジュニアの部で2位。3年のインカレでは念願の個人優勝を収めた。「故障やインカレに出られなかった悔しさがあったのでうれしかったですね。持ち前のポジティブマインドが戻った瞬間だった。現在は、食事や体重調整にも慎重に取り組み、大会にベストコンディションで臨むことで、自身のポテンシャルを存分に発揮。先のアジア大会での好成績につながった。たくさんOB・OGと仲間からの支援が大きくなった」と成果を振り返る。今後は、「国際大会の経験を生かし、11月のインカレで二連覇、日本記録を目指したい」と意気込む。また企業への就職も内定しており、卒論にも励む壺内さん。社会人になっても、あくなき重量への挑戦を続けていきたいと語った。

で貯金箱を作ったときは、キットで作ったのだと先生が思い込み、コンテストに出場させてもらえなかったほど凝った作りだったとか。「2年前には父とヒザ窩を造って研究室のみんなでビザパーティしたんですよ」と楽しそうに語る。「目に見えて形のあるものを作りたい」と、電気や情報の分野ではなく機械システム系学科に絞り、本学に入学した。入学当時から医療や福祉に興味があり、学部4年の時にインタフェースシステム学研究室を見学したところ、ちょうど医工連携で研究が進められていたこの穿刺ロボットのことがわかった。「この研究なら、人や医療に役立つものが作れる」と、研究分野を決めたという。

現在の研究は、学生15人と担当教授や医師、技術系スタッフを含めたチームで行っている。ロボットが骨を穿刺するには、軟部組織を傷つけず、骨を正確に、適切に削るようコンピューター制御する必要がある。大型のZerobot®を用いて毎回実験するのは大変なので、研究室に設置した簡易的な実験機器で日々シミュレーションし、データ解析を重ねてまた試行に移す。それぞれの研究を黙々と行う毎日だが、男女の垣根もなく、オフにはみんなで

バレーボールやフットサルを楽しむ仲の良いメンバーだとか。人間の力を超え、仕事を奪うかもしれないロボットを「怖い」と思っていたという中田さん。自身がロボットを開発する立場になることで、ロボットの力を借りる部分と人間の力でやる部分を考えて、「医師だけではできない治療を補ったり、医療が届かない地域の人を救ったりしたい」と話す。既に、医療・福祉系メーカーへの就職も内定しているという。医師と地域の企業と学生と一緒に病院を回り、医療現場の課題解決を探るプログラムに参加して学んだことが経験になり、就職先を探る際にも、実際に病院などに足を運び、医療現場の課題を見つけて、それを解決するものづくりができる企業に決めたそうだ。「貫いて『好きなものづくり』を追求してきた中田さん。この世に今はない『新しい概念』を作りたいと思っている目を輝かせて話す。医療のみならず医療を取り巻く看護、介護福祉を含めて現場で抱えている課題を解決できるような、ものづくりの未来を見つめている。

中田 ころ
大学院ヘルスシステム統合科学研究科2年
(工学部機械システム系学科2022年度卒業)



令和5年度
学生スポーツ賞
スポーツ
奨励賞

令和5年度
学生文化
奨励賞

- 弓道部 個人 木原 風花さん
- 漕艇部 個人
細田 桂菜さん 神尾 羽菜さん
平木 康太さん 森 琉聖さん

- ウェイトトレーニング部 個人
井上 永唯さん 谷井 洋介さん 谷井 勇介さん
鶴嶋 蓮大さん 渡辺 侑さん 藤原 朋樹さん
藤井 佑季さん 八木 武賜さん 渡辺 聡太郎さん
田邊 寛大さん 青木 裕司さん 山下 裕人さん
河原 美優さん 川添 颯さん 井谷 駿介さん
宮脇 慶伍さん 西尾 岳人さん 森東 優さん
江口 詩織さん 丸尾 樹也さん 岡本 敬宏さん

- 陸上競技部 個人
平尾 元さん 橋崎 理海さん 村下 綺菜さん
藤井 美春さん 山根 みのりさん
赤澤 京弥さん 梅垣 朋宏さん

- 少林寺拳法部 個人
三宅 さくらさん 出射 くるみさん 江本 真理子さん
武田 蓮さん 平岡 未羽さん

- ヨット部 個人
中尾 優太さん 宮本 優介さん 伊波 悠さん 岩口 敦さん

- 卓球部 個人
渡邊 衣葉子さん 段畑 裕哉さん 磯村 真斗さん

- 水泳部 個人
丸山 珠侑さん 真鍋 陽生さん 有富 一真さん
三好 凜さん 宮崎 雄大さん 村上 太一さん

- 医学部弓道部 個人
三神 映月さん 小林 晃大さん 神頭 咲月さん
木下 純一さん 飯島 莉子さん

- 鹿田陸上競技部 個人
加藤 優衣子さん 篠原 七海さん 多胡 遥香さん

- 環境生命科学研究科 個人
南方 昭寛さん 旭 隼佑さん

- 女子ハンドボール部 団体 陸上競技部 団体

- 女子アイスホッケー部 団体 卓球部 団体

- 男子アイスホッケー部 団体 サッカー部 団体

- ソフトボール部 団体 女子ラクロス部 団体

- 医学部弓道部 団体 鹿田水泳部 団体


- 鹿田陸上競技部 団体

- 校友会活動における多大な貢献
令和5年度校友会体育会総務委員会 個人
総務委員長
松田 里佳子さん

令和5年度
学生スポーツ賞
スポーツ
貢献賞

- 校友会活動における
多大な貢献 個人
校友会文化会総務委員長
清水 純さん

学生文化奨励賞をいただき大変光栄です。各委員の連携と関わる全ての方々のサポートのおかげで、私たちは部活動に励むことができているのだと、この活動を通じて感じました。今後も感謝の気持ちを忘れずにまい進することで、人としても成長していきたいと思いを。



- 第52回全国競技かるた松山大会 個人
C級 優勝 楠田 和可さん
E2級 優勝 藤原 琉菜さん
- 第11回全国競技かるた山口大会 個人
B級 第2位 山田 桜子さん
- 第13回全国競技かるた岡山大会 個人
B級 優勝 宮本 理央さん
- 第72回高松宮記念杯近江神宮 全国競技かるた大会 個人
B級 優勝 大野 朱音さん
- 第19回全国競技かるた香川大会 個人
C2級 準優勝 二神 新太さん
D1級 3位 三木 さくらさん
D3級 優勝 坂野 智香さん
- 第108回全国職域学生かるた大会 個人
D級 準優勝 多胡 遥香さん 栗生 綾乃さん
北川 歌恋さん 草竹 恵実さん

- 混声合唱版「うらじゃ」の編曲 個人
橋本 悠太郎さん
- 岡山県内での継続的な清掃活動の継続及び真備町での復興支援活動 個人
梶本 夏末さん
- The 2023 National Model United Nations Germany Conference Honorable Mention Delegation Award
山下 友大さん
- 第6回「忘れられない中国滞在エピソード」コンクール 個人
2等賞 谷 拓篤さん
- 岡山イノベーションコンテスト2023 個人
グランプリ 棚井 あいりさん
- 岡山市の多文化共生推進活動への貢献 個人
赫連 茹玉さん
- 令和5年度 安来節全国優勝大会 個人
一般・准師範・絃の部 三味線 優勝 福本 唯央那さん

- 交響楽団 団体
第70回記念定期演奏会の開催

- 放送文化部 団体
第40回NHK全国大学放送コンテスト
映像番組部門 第2位

- ダンス部 団体
第35回全日本高校・大学ダンスフェスティバル
創作コンクール部門 入選



スポーツ優秀賞をいただき、大変光栄に思います。昨年度に続き、全国国立大学柔道優勝大会ベスト8を、2年連続で達成することができました。今年度もベスト8以上の成績を達成できるよう部員一同精進してまいります。代表:富山 大輝さん

柔道部

- 第63回全国国立大学柔道優勝大会 ベスト8 団体
- 第63回全国国立大学柔道優勝大会 個人
優秀選手賞 谷本 旭さん

ウェイトトレーニング部

- 第50回全日本学生パワーリフティング選手権大会 団体
団体の部 優勝

ウェイトトレーニング部がスポーツ優秀賞を団体として受け取り、大変喜ばしく感じております。ウェイトトレーニング部の部員たちが積み上げてきた努力が、このような評価をされて大変報われた気持ちになります。来年もまたいい報告ができるように部員一同頑張っていきます。代表:壺内 怜帆さん



- 第50回全日本学生パワーリフティング選手権大会 個人
- | | | |
|-----------|-----|----------------------|
| 女子 52kg級 | 第1位 | Ingyin Phooさん |
| | 第4位 | 岡 あゆみさん |
| 女子 63kg級 | 第2位 | Ibegwam Chigaamezuさん |
| | 第6位 | 井浦 那奈さん |
| 女子63kg超級 | 第2位 | 大西 咲綺さん |
| 男子 53kg級 | 第2位 | 河上 舜弥さん |
| 男子 59kg級 | 第4位 | 古賀 健慎さん |
| 男子 74kg級 | 第2位 | 杉野 浩生さん |
| 男子105kg超級 | 第1位 | 壺内 怜帆さん |

- 第71回全日本学生弓道選手権大会 個人
女子個人の部 第7位 藤井 遥香さん

- 第34回U20選抜競歩大会 個人
U20男子10km競歩 第4位 福永 伸之介さん

- 第60回全日本ボウリング選手権大会 個人
3人チーム戦 第5位入賞 寺尾 隼さん

- 第70回全国国公立大学選手権水泳競技大会 個人
- | | | |
|----------------|-----|-------------------------|
| 男子4×100mフリーリレー | 第4位 | 瀬戸 禅貴さん 竹内 悠翔さん 多田 貴資さん |
| 男子200m背泳ぎ | 第3位 | 柳 遥貴さん |
| 男子400m個人メドレー | 第8位 | 矢野 和尊さん |
| 女子400m個人メドレー | 第7位 | 桑原 菜摘さん |
| 女子50m自由形 | 第3位 | 下田 彩葉さん |
| 女子4×50mフリーリレー | 第7位 | 柳生 笑利さん 苔口 陽香さん |

- 第75回西日本医科学学生総合体育大会 個人
- | | | |
|---------|-----|----------|
| 男子5000m | 第3位 | 日名子 泰明さん |
| 男子1500m | 第1位 | 岩崎 亮太さん |

- 第55回全日本歯科学学生総合体育大会 個人
- | | | |
|-----------|-----|----------|
| 女子200m自由形 | 第3位 | 福井 さやかさん |
| 女子50m平泳ぎ | 第2位 | 松本 由梨子さん |

- 第62回全日本学生なぎなた選手権大会 個人
試合競技 女子個人の部 第3位 山根 千慶さん



令和5年度
「学生スポーツ賞」&「学生文化奨励賞」
受賞者紹介

日々奮闘する岡大生を表彰

岡山大学では、学業や文化活動、スポーツなどで優れた成績を挙げた学生を毎年表彰しています。正課外スポーツ活動において優秀な成績を収めた個人・団体を表彰する「学生スポーツ賞」、正課外文化活動において優秀な成績・活動実績が認められた個人・団体を表彰する「学生文化奨励賞」を受賞した学生を紹介します。奮闘する岡大生たちの活躍に、今後もご期待ください!

令和5年度
学生スポーツ賞
スポーツ
優秀賞

素晴らしい賞をいただき大変光栄です。OBさんのサポートや日々重ねてきた部員の努力の賜物だと思いを胸にこれからはさらなる活躍ができるよう頑張ります。今後も競技ダンス部の応援をよろしくお願いたします。代表:有馬 義力さん



競技ダンス部

- 第69回全日本学生競技ダンス選手権大会 団体
競技ダンス選手権大会 総合の部 3位

- 第69回全日本学生競技ダンス選手権大会 個人
スローフォックストロットの部 第2位
原 鳳花さん 平山 大雅さん

歯学部弓道部

- 第55回全日本歯科学学生総合体育大会 団体 総合3位



このような賞を受賞し、大変光栄です。歯学部弓道部は医学部弓道部とともに切磋琢磨しながら日々練習に励んでいます。これからも良い成績が残せるよう、支えてくださる方々に感謝しながら精進していきますので、今後もよろしくお願いたします。代表:中道 桜悠さん

- 第55回全日本歯科学学生総合体育大会 個人

- 女子個人戦 優勝 中道 桜悠さん
男子個人戦 第4位 河野 瑠輝さん

歯学部剣道部

- 第55回全日本歯科学学生総合体育大会 団体
剣道部門 女子団体戦 優勝

名誉ある賞をいただき、大変光栄です。この場をお借りして、師範や顧問の先生、OBの先生方、日々ご指導・ご支援して下さっている方々に感謝申し上げます。鹿田剣道部一同、今後も精進してまいりますので、応援のほど、よろしくお願いたします。代表:關 理咲さん



仕事と育児を

両立できる職場をつくる

岡山大学の

産後パパ育児



岡山大学のD&Iの取り組み



岡山大学では、2009年1月にダイバーシティ推進本部を設置し、「岡山大学ダイバーシティポリシー」のもと、女性研究者支援をはじめとする男女共同参画、保育所運営などの次世代育成支援、障がい者雇用など、構成員の多様性を高めるための様々な取り組みを推進してきました。今回は「産後・パパ育児」にフォーカス。

2022年の育児・介護休業法改正により、本学では産前・産後休暇等有給となったことに加え、同年には産後パパ育児（出生時育児休業）や育児休業の分割取得がスタートし、より柔軟な取得が可能になりました。昨年度の男性の育児休業取得率が46%の本学。取得率のさらなる向上に向けた取り組みと産後パパ育児取得者の声をご紹介します。



教職員の育児への理解と協力を最大のミッションに。



2019年に次世代育成支援室長に着任した当初から、教職員の育児への理解と協力ある雰囲気が大学全体に浸透することを最大のミッションとしてきました。そのようななかで、2022年の育児・介護休業法改正の動きに合わせて、本学でも産後パパ育児の制度を導入できたことは大きな転機となりました。そして、その制度が順調に軌道に乗り、大学全体で男性教職員の育児休業取得への理解が広がっていることを、大変喜ばしく思っております。今後さらに、「私も育児休業を取得してみようかな」と思う男性教職員を増やすためには、今回お話を聞き取った6人の男性教職員のように、実際に育児休業を取得した方々から

その経験を聞くことがとても大切だと思っています。産まれたばかりの子どもと過ごせる時間は、人生において貴重な時間になるはず。その時間を、ぜひ一人でも多くのパパに存分に味わってもらえると嬉しいです。育児休業に限らず、今後とも次世代育成支援室では、教職員の皆さまが必要だと思われる支援を検討します。「こんな制度があるといいな」をぜひお気軽にお聞かせください。

ダイバーシティ推進本部
次世代育成支援室長
尾島 卓 准教授
OJIMA Taku



ダイバーシティ推進本部のHPはこちら
<https://okayama-u-diversity.jp/>

育児を取得した男性教職員の声

育児取得期間

2023/8/9~8/28、9/5~9/12

異分野基礎科学研究所 講師
千住 洋介
SENJU Yosuke



育児休業を取得したきっかけは、妻の負担軽減を考えてのこと。しかし、実際の育児は想像以上に大変で、まるで24時間勤務のよう。記憶を失うほど忙しく、妻の負担軽減どころか、そもそも1人でこの山場を乗り切ることが無理だと感じました。もちろん大変なことばかりではなく、育児休業中に得た経験は一生の財産。一番手のかかる時期に四六時中子どもと過ごせたことはとても幸せでした。また、今後の育児支援の在り方として、研究費による制限なく、臨時で研究室に教職員を雇用できる仕組みがあると、男性教員はもっと積極的に育児休業を取得できるかもしれません。根本的な問題をクリアにし、制度を整備することが、将来的に長続きする大学の構築につながる気がします。

育児取得期間

2024/7/1~7/28

学術研究院教育学域 講師
高橋 徹
TAKAHASHI Toru

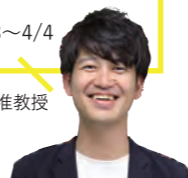


2022年にうえの子が生まれた時には、妻が県外の実家で里帰り出産をしたこともあり、実際に子どもの様子を見ることができたのは、出産から1カ月後のことでした。そのため、育児休業を取得した今回は、出産直後から妻とともに子どもの様子を近くで見ることができ、とても嬉しかったです。何よりありがたかったのは、育児休業の取得にあたって、周りの教職員の方にしてもらったサポート。前年度中に、7月に妻が出産予定であることを伝えたと、授業の担当を4月5月にまとめるよう調整してもらったことは、本当に助かりました。保健体育を専門とする自分の原点「子どもが好き」という気持ちを新たにでき、これからの育児も楽しむことができそうです。

育児取得期間

2024/3/11~3/22、3/28~4/4

学術研究院社会文化科学学域 准教授
小栗 寛史
OGURI Hirofumi



育児休業期間中は、予測不能なことばかり。それでも、子どもの成長を日々真横で感じられたことには何よりの楽しさがあり、妻との絆も一層深まったように感じます。一時的に研究業務を中断しなければならなくなったことには不安もありましたが、子育て経験者の同僚から「研究は自分ひとりのプロジェクト。少し止まっても再開できるけど、子育ては家族のプロジェクトだからパパは不可欠だよ」と言ってもらったことで、育児にまい進できました。育児休業の取得を通して、周囲の皆さんと今までとは違った角度からコミュニケーションがとれたことも、育児休業を取得してよかったと感じた点です。育児休業の取得が、改めて仕事を含む自己実現を考えるきっかけになりました。

育児取得期間

2023/6/1~6/28

資源植物科学研究所 主任
高山 寛之
TAKAYAMA Hiroyuki



植物研は職員の人数も少なく、育児休業取得にあたってはその点が気がかりでしたが、事務長をはじめ皆さんが快く送り出してくださり、前向きな気持ちで取得できました。育児休業のおかげで、産まれてすぐから一緒に多くの時間を過ごせたからか、娘は僕の寝かしつけでもすぐに寝てくれました。そのうれしさを糧に、できることは何でもやろうと、掃除、洗濯、うえの子のお弁当づくりと、不慣れな家事にも積極的に挑戦。何か特別なことではなく、ちょっとしたことで、妻の支えになれることを実感しました。今回の育児休業を経て、育児に対する気持ちを新たにすることができました。これからの育児も、妻と一緒に、一生懸命頑張ります。

育児取得期間

2023/12/4~12/17
2024/1/4~1/17

財務部財務企画課 主任
藤井 克之
FUJII Katsuyuki



第2子の出産にあわせて、育児休業を取得しました。今の担当に配属になって1年も経っておらず、まだ仕事にも不安があり、そのうえで育児休業を取得する不安は大きかったです。昔から気にかけてくださる先輩の後押しもあり、取得に踏み切ることができました。育児休業期間中は、妻の実家に私も一緒に里帰りし、義父母のサポートを受けながら、私は主に2歳になるうえの子を担当。育児休業を取得できたことで、何があってもすぐに対応できる余裕が生まれ、とても助かりました。子どもたちのこれからの成長も、できる限りそばで見届けられるよう、これからも育児パパを頑張ります！

育児取得期間

2024/4/30~5/26

総務・企画部総務課 事務職員
西山 大貴
NISHIYAMA Daiki



育児休業取得を決めたのは、妻の妊娠が判明して間もなくの頃。育児休業を取得したばかりの同僚から前向きな話を聞く機会もあり、取得を真剣に考えるようになりました。実際に育児休業期間が始まると、育児へのイメージは大きく覆されました。おむつを替えて、ミルクをあげて、哺乳瓶を消毒して、抱っこをして寝かせる…。泣きだせばまた抱っこをして、おむつを替えての繰り返し。それでも、この息つく暇なしの状況を、試行錯誤しながら妻と一緒に解決して支え合えて、本当によかったです。育児休業取得を迷う方は、ぜひ前向きに検討してみてください。きっと皆さんの周りの方も、温かく背中を押してくれるはずです。

本学の出産・育児支援については下記URLでご紹介しています。



<https://okayama-u-diversity.jp/birth-childcare-nursing-care-support/birth-childcare-support/>

press release
プレスリリース

新型コロナウイルス後遺症の症状に見られる立ちくらみ症状の特徴を調査

大学院医歯薬学総合研究科の加藤篤之大学院生と、学術研究院医歯薬学域総合内科学の大塚文男教授らのグループは、岡山大学病院のコロナ後遺症外来(コロナ・アフターケア外来)を受診した患者に見られる「起立性調節障害」の有無とその特徴について研究を行いました。

コロナ後遺症で受診した患者さんのうち、立ちくらみ症状を訴えた患者さんに対して起立試験を行ったところ、38%の患者で陽性となり、そのうち約半数(48.5%)が20歳未満の若年者でした。起立試験陽性の患者さんの症状には、吐き気や動悸が多く、起立したときの頻脈と、起立直後の拡張期血圧の上昇が特徴的でした。さらに、若年の患者さんでは、脳下垂体から分泌される血中の成長ホルモンが低いことも分かりました。

この研究結果は7月24日、国際学術雑誌「Scientific Reports」に掲載されました。

加藤大学院生

大塚教授

PICK UP! 2024.5.1-11.1 着任
岡山大学新任教員紹介!

山本 和宏

YAMAMOTO Kazuhiro

■所属 学術研究院医歯薬学域教授

研究分野 トランスレーショナルリサーチ 薬物動態

鍵本 芳明

KAGIMOTO Yoshiaki

■所属 学術研究院教育学域教授

研究分野 教職実践 教育行政

武内 俊樹

TAKENOUCHI Toshiki

■所属 学術研究院医歯薬学域教授

研究分野 小児神経学 臨床遺伝学

近田 藍

CHIKADA Ai

■所属 学術研究院保健学域准教授

研究分野 人間健康科学 看護学

鈴木 茂樹

SUZUKI Shigeki

■所属 学術研究院医歯薬学域教授

研究分野 歯科保存学

岡本 伸介

OKAMOTO Shinsuke

■所属 学術研究院教育学域助教

研究分野 作曲 西洋音楽

遠藤 みのり

ENDO Minori

■所属 学術研究院環境生命自然科学学域講師

研究分野 野菜園芸学

角谷 宏一

KADOYA Koichi

■所属 学術研究院医歯薬学域助教

研究分野 口腔腫瘍学 バイオマテリアル

※所属等は着任時のものです。

PICK UP! 2024年度 第76回
西日本医科学生総合体育大会で
岡山大学が総合優勝!



8月5～18日に、第76回西日本医科学生総合体育大会(通称:西医体)が開催され、各競技の成績の集計により、岡山大学が総合優勝を飾りました。本学の総合優勝は、2005年度第57回大会以来、19年ぶりです。

西医体は、西日本(富山市・岐阜市・愛知県長久手市・静岡県浜松市以西)に所在するすべての大学医学部が参加する医学生生のスポーツ大会です。医学部の運動部にとって、西医体は最も重要で、かつ由緒ある大会とされています。

今年は川崎医科大学を主管大学として、硬式テニス、ソフトテニス、サッカー、準硬式野球、弓道、陸上、剣道等20種類の競技で試合がありました。



岡山大学
「大学院修学支援制度(2024年後期)」
認定式を挙行政

CEREMONY



8月28日、本年度から実施する岡山大学「大学院修学支援制度(2024年後期)」認定式を、本学津島キャンパスの本部棟で挙行政しました。

本制度は、本学の長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」実現のため、大学職員の高度化を図るひとつの手段として、本学の大学職員(事務職員、技術職員、図書職員など)を対象に、本学大学院の修士と博士の学位取得を支援するものです。

本年度後期は、総合技術部に所属する教育研究系技術職員を対象として、既入学者も含めて募集を行い、申請のあった中から、学長を審査主査とする、理事、副学長らの選考会の審査を経て、同部教育支援技術課の朝倉真実技術専門職員と同部医学系技術課の小林智瑛技術専門職員の2人が合格となりました。

OKAYAMA UNIVERSITY NAVIGATION
OU NAVI

令和6年度
秋季岡山大学入学式
大学院入学式を挙行政

CEREMONY

10月1日、秋季入学式を創立五十周年記念館で行い、新たに入学したグローバル・ディスカバリー・プログラム学生27人と大学院生129人が大学生活へのスタートを切りました。

式では那須保友学長が「今日、皆さんは学業と人生のキャリアにおいて新たな入り口に立っています。一歩踏み出し、新しい道を切り開くために挑戦してください」と英語で式辞を述べました。

新入生を代表して、グローバル・ディスカバリー・プログラムのZHENG Bowenさんが「2024年度の新入生として、私たちはこの教育という旅を、深い恩恵であり、新たな境地を切り開く機会であると考えています。情熱と相互扶助、そして未来への尊敬の念を持って、学問的目標を達成するために協力し合うことを誓います」と宣誓しました。

オープンキャンパス2024を開催!

EVENT

8月3、4、7、8、9日の5日間、オープンキャンパスを開催し、県内外から7,300人を超える高校生が参加しました。

来学方式のオープンキャンパスは10学部とグローバル・ディスカバリー・プログラムで開催。各学部の紹介や入試制度の説明のほか、研究室の見学、本学の在学生や教員との懇談会など、多彩な催しが開かれました。

このうち、7日に開催となった法学部の説明会では、冒頭にサプライズで那須保友学長が訪れ、高校生を激励しました。その後、法学部の概要説明、模擬講義、在学生による法学部の紹介もありました。閉会後の懇談会では、高校生らは熱心にメモを取るなど、入試制度や大学の講義内容、将来の進路などについて積極的に質問をしていました。



2024	大学の動き(2024年7月～10月)
7月	5日 ● 文部科学省「オープンアクセス加速化事業」に採択 18日 ● 学生広報ボランティアスタッフ任命式を実施
8月	5日 ● 令和6年度献血運動推進協力団体等 厚生労働大臣感謝状を受領 8日 ● 岡山大学・米国務省 「重要言語奨学金(CLS)プログラム」閉講式を挙行政 9日 ● 暮らし作陽大学と包括的連携・協力に関する協定を締結
9月	4日 ● 岡山大学、島根大学、香川大学、鳥取大学の4大学医学部 が臨床実習教育の協力に関する協定を締結 12日 ● グッドジョブセンターが学長・理事との懇談会を開催 25日 ● 令和6年度秋季学位記授与式を挙行政
10月	1日 ● 岡山大学職員の内定式を開催 4日 ● 岡山大学と岡山県立大学が内閣府「令和6年度 地域中核大学 イノベーション創出環境強化事業」に採択 13日 ● 中国・北京で開催の中国高等教育学会主催 「2024 International Forum on Higher Education」で 那須保友学長が代表講演 19日 ● 環境理工学部創立30周年記念式典・祝賀会を開催

学生の活躍発信中!
岡山大学公式 SNS
ぜひフォローしてください!

X(旧:Twitter)

Instagram

Facebook



1枚の写真から紐解く、岡大の歴史。
誰かにそっと教えたいくなる…そんなエピソードとともに紹介します。

岡大 OU Pictorial History

モノクローム #10



旧事務局庁舎と情報展示室 1908(明治41)年 春頃

※個人蔵、本学文明動態学研究所提供

2022年3月に本学埋蔵文化財調査研究センターに持ち込まれた古写真の一部。そこに写るのは、旧日本陸軍第十七師団岡山聯隊^{れんたい}区司令部(A)とその衛兵所(B)。現在も、司令部の一部は本学本部棟南西の旧事務局庁舎として、衛兵所は南北道路に面する情報展示室として残存しています。

昨年、この古写真が1908(明治41)年春頃に撮影されたものであることが明らかになり、情報展示室の竣工年を旧日本陸軍入営後の1911(明治44)年とする現在の認識は誤りであることが分かりました。半田山の中腹から駐屯地を写した古写真には、旧日本陸軍の関連施設の建物が多く写っており、それぞれの竣工年の地道な同定から判明した新事実でした。

竣工から100年以上が経った今でも、旧事務局庁舎と情報展示室は、そのレトロな外観から本学の景観を彩っています。

参考：岡山大学文明動態学研究所【第27回 RIDCマンスリー研究セミナー】

旧日本陸軍第十七師団駐屯地造営時の古写真を読む 発表者：野崎貴博” Youtube. 18 Oct. 2023,
<https://www.youtube.com/watch?v=v677rUxaYYM&t=16s>, Accessed Nov. 29, 2024.



情報展示室▶



学 章

岡山大学広報 いちよう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

発行：岡山大学 総務・企画部 広報課

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

Tel. 086-252-1111 Fax. 086-251-7294

E-mail www-adm@adm.okayama-u.ac.jp

<https://www.okayama-u.ac.jp>

岡山大学

検索



抽選で5名様に
宮竹教授の最新著書
「特殊書虫から
日本を救え」
プレゼント!

読者アンケート
実施中!

